

セントラルパーク コンサート

THE CONCERT IN CENTRAL PARK
SIMON & GARFUNKEL
サイモン&ガーファンクル

- 11 **ミセス・ロビンソン**
(LP「ブックエンド」より)
Mrs. Robinson2:58
- 2 **早く家に帰りたい**
(「パセリ・セージ・ローズマリー&タイム」)
Homeward Bound3:06
- 3 **アメリカ**
(「ブックエンド」)
America4:30
- 4 **僕とフリオと校庭で**
(「ポール・サイモン」)
Me And Julio Down By The Schoolyard 2:58
- 5 **スカボロー・フェア**
(「パセリ・セージ・ローズマリー&タイム」)
Scarborough Fair3:37
- 21 **四月になれば彼女は**
(「サウンド・オブ・サイレンス」)
April Come She Will2:12
- 2 **リトル・スージー**
Wake Up Little Susie2:13
- 3 **時の流れに**
(「時の流れに」)
Still Crazy After All These Years3:28
- 4 **アメリカの歌**
(「ひとりごと」)
American Tune4:07
- 5 **追憶の夜**
(「ワン・トリック・ポニー」)
Late In The Evening3:58
- 31 **スリップ・スライディング・アウェイ**
(「グレイテスト・ヒッツ・エトセトラ」)
Slip Slidin' Away4:26
- 2 **ハート・イン・ニューヨーク**
(「シザーズ・カット」)
A Heart In New York2:20
- 3 **僕のコダクローム～メイベリン**
(「ひとりごと」)
Kodachrome～Mabellene5:38
- 4 **明日に架ける橋**
(「明日に架ける橋」)
Bridge Over Troubled Water4:35
- 41 **恋人と別れる50の方法**
(「時の流れに」)
Fifty Ways To Leave Your Lover4:05
- 2 **ボクサー**
(「明日に架ける橋」)
The Boxer4:45
- 3 **旧友**
(「ブックエンド」)
Old Friends2:45
- 4 **59番街橋の歌**
(「パセリ・セージ・ローズマリー&タイム」)
The 59th Street Bridge Song1:51
- 5 **サウンド・オブ・サイレンス**
(「水曜の朝・午前3時」「サウンド・オブ・サイレンス」)
The Sounds Of Silence3:49

“Ladies and Gentlemen, Simon and Garfunkel” わあっと、歓声はまた一段と高くなる。50万人の歓声。いや、それに今あなたの歓声も加わっているに違いない。ファンの間ではよく口にされる言葉ながら、公式の間では久しくきけなかったアナウンス。Simon and Garfunkel という言葉の懐しいひびき。このオープニングだけでも、こみあげてくるものがある。

1981年9月19日、ニューヨークのセントラル・パークは雨模様だった。それにもかかわらず、朝から続々と人々がつめかける。中には前夜からの迫り込み組も少なくない。みんなサイモン&ガーファンクルの、9年ぶりのたった一度の再結成コンサートをみるためだ。公園緑化運動に協力する無料チャリティ・コンサートとはいえ、会場に集まった人々の記録的な多さは、歴史的イベントといわれた“ウッドストック”をしのいでいる。当のポール・サイモンとアート・ガーファンクルの二人も、前日から寝袋持参でやってきて、リハーサルをした後、そこで夜を明かした。

何かが起きる前の、あの緊張と期待のうちにコンサートが始まったのは、午後6時47分。幸い雨も上がり、夏時間のニューヨークはまだ西日が明るい。公園のグレイト・ローン“Great Lawn”と呼ばれる場所に設けられた架設ステージは、ニューヨークのビルからのスカイラインを象徴して、何本かの煙突、屋上タンクが型どられている。そしてコッチ市長の紹介でサイモン&ガーファンクルが舞台上に姿を現わした。その瞬間を長年待ちわびていた聴衆のどよめき。Tシャツにストライプの上着を無難作にひっかけてたポール。アートはGパン・Yシャツに黒っぽいチョッキをはおっている。ただただ上る歓声に二人もしばし立ちつくし、しっかりと握手が交わされる。そしてポールのアコースティック・ギターの先導で「ミセス・ロビンソン」を歌いだす。かつて二人は、ステージで必ず最初にこの曲を歌ってきた。長いブランクがウソのように、ピタリと合った呼吸。二人の嬉しそうな顔が印象的だ。時折、涼風が吹いてくる。2曲目「早く家に帰りたい」は、初期のS & G (サイモン&ガーファンクル) を思わせるシンプルなスタイルだが、ゆったりとした余裕がにじんでいる。そして歌い終わると、「地元でコンサートをやるなんて、最高だね」とポールがいうと、また一段と歓声が大きくなる……。

一回のコンサートに50万人を集めたサイモン&ガーファンクルは、30代以上の人々には青春の思い出と重なりあって、こよなく懐しいアメリカ最高のデュオだ。ポール・サイモン、アート・ガーファンクル、共に1941年生まれ。ニューヨークのクイーンズ地区で同じ小学校に通い、一緒に歌ってきた。1957年にはトム&ジュリーの名前でレコードを出し、大学時代は別々の道を歩んだが、'61年に再会。'64年CBSレコードと契約して、サイモン&ガーファンクルが正式に誕生した。そして第1作「水曜の朝、午前3時」でデビュー。「サウンド・オブ・サイレンス」以下、ビッグ・ヒットを放って、アメリカン・ポップスに詞の重要さと、純粋なサウンドの美しさで一時期を画した。だが、'70年、「明日に架ける橋」を最後に、事実上の解散となる。そしてポールはソロLP 6枚を残してワナー移籍。アートは映画に情熱をもやしながらか、美しい5枚のソロ・アルバムを発表。共にソロ歌手として現在に至っているが、S & G再結成を願う声が、近年とみに高まっている。

ところで、今回のコンサートの話は、最初にポールのところに依頼がきた。*ポール・サイモン&ヒズ・フレンズ”という名目だったらしいが、ポールが「アーティーとやりたい」ということで、最終的にサイモン&ガーファンクルになったという。そして懐しいS & Gのヒット曲が次々と歌われ、ポールのソロ・ナンバーをアートと一緒に歌ったり、各々のソロや、新曲も入れて計21曲を、すばらしい歌声とあの魅力的なハーモニーできかせ、聴衆を感激の渦にまきこんだのだ。当日会場にはポールとアート、それぞれの母親、ポールの息子、最近ポールと婚約した女性のキャリー・フィッシャーなども姿をみせた。またコンサート自身は無料ながら、記念バッジやTシャツ、ポスターなどが

飛ぶように売れ、売上金100万ドル以上が、ニューヨーク市の公園当局に寄附された。

このコンサートのライブ・アルバムは、アンコールで再び歌われた「追憶の夜」とジョン・レノンに捧げられたポールの新曲“Late Great Johnny Ace”の2曲を省いた全19曲が、ここにコンサートの進行そのままにレコードとなっている。バック・ミュージシャンは**スティヴ・グッド、グラディ・テイト**(ドラムス) **デヴィッド・ブラウン、ビート・カー**(ギター)、**アンソニー・ジャクソン**(ベース)、**リチャード・ティ**(キーボード)、**ロブ・マウンジー**(シンセサイザー)、**ジョン・ガッチェル、ジョン・エッカート**(トランペット)、**デヴィ・トファニ、ジェリー・ニューウッド**(サククス)とそうそうたる顔ぶれ。編曲はポールとデヴィッド・マシューズ、プロデュースはポール、アートに**フィル・ラモン、ロイ・ハリー**の4人が行っていて、野外コンサートとは思えないほど見事なサウンドのうちに、50万人のどよめきもリアルに伝えている。そして、アメリカではこの2月21日、その模様を収めたビデオがケーブル・TVで放映。私もそのコピーをみながら、コンサートの印象記をここに記しているわけだが、日本での放映はまだ未定。こんな感動のビデオは、すぐに放映してもらいたいものだが、サイモンとガーファンクル、実に11年ぶりのニュー・アルバム、そして初ライブ盤は、映像がなくても充分酔うことのできる名盤であり、何の小細工もない、ひたむきな歌声と演奏は、深い感動へと誘いこむのだ。

さて、「ミセス・ロビンソン」(A-1)、「早く家に帰りたい」(A-2)に続いて、ゆったりとした調子で「アメリカ」(A-3)が歌われる。アートはマイクを抱えるように、又腕組みをしたり、時々ポケットに両の拇指をつっこんだりしながら歌っていたが、歌声には甘く感性的なひびき加わり、**デヴィッド・ブラウン**(ビリー・ジョエル・バンドの若いギタリスト)のソロも美しいトーンで魅惑を高めている。この頃から、陽は急速に落ち始めた。ポールとアート二人でニコリ顔を見合せて、4曲目はテンポもいきいきとした「僕とフリオと校庭で」(A-4)。これはポールの初ソロ・アルバムに入っていた曲だが、最初からアートとのデュエットで、すばらしい快唱。ジュリー・ニューウッドのサククス・ソロやホーンも入り、しみいにはスキヤットもとび出す楽しさ。大きな黄色い風船も、ステージ近くでゆらゆら揺れている。ひと々大きな歓声に、アートは感激して「何てすばらしい夜なんだろう!」。続いてはガラリと変わり、静かに心にしみいるような「スカボロー・フェア」(A-5)。ポールの美しいギターに、アートのソロからデュエットになっていく。テンポのとり方に、15年の歳月を感じる。

この頃になると、陽はもう落ちて、ライトが消えると会場は次第にくら闇に近くなる。ポールのギターだけを伴奏に、アートの歌声が静かに流れる「四月になれば彼女は」(B-1)。「これが僕たちのルーツです」といつて紹介されたのが「リトル・スージー」(B-2)だ。**エヴァリー・ブラザーズ**の影響を受けた彼等は、同じエヴァリーのナンバー「**バイ・バイ・ラヴ**」をレコードに入れているが、この曲はステージではきけても、レコード化はこれから始めて。スマートなサウンドにのせたテンポよい軽快なロックン・ロールに、聴衆は大喜びだ。つづいてポールのソロで「時の流れに」(B-3)。丁寧に歌っていたレコードより、ラフに歌っている。その間、アートは後の階段に腰かけてきいていた。サククス・ソロは**デヴィッド・トファニ**。立ち上って舞台中央に出てきたアートが、「僕、すごくムードが出てきちゃった。」そして「**アメリカの歌**」(B-4)。ギター中心のシンプルなサウンドだ。アートは真剣な顔つきで、ソロからデュエットへ。この頃には日もとっぷり暮れて、全くの夜となる。風も出てきた。そしてポールはギターをエレキ・ギターに変え、リズムもヴィヴィッドな「追憶の夜」(B-5)。これはポールの初主演映画「ワン・トリック・ポニー」のサン・トラからの曲だが、リズムにのった二人の熱唱、ホーン・セクションの歯切れのいい快演に、ステージ上も下も熱くなって、遂にみんな踊り出してしまふ。

二人は何やら手でサインを交わし、始まったのは「スリップ・スライディング・アウェイ」(C-1)。これはポール・ナンバーだが、デュエットでゆったりと、だが引きしまったフォーク・ロック調で歌い、さすがにうまく、余裕が感じられる。「今度は僕の最新盤から。唯一のポールなしの曲です」といって、アート・ナンバー「**ハート・イン・ニューヨーク**」(C-2)が始まる。アートは「静かにきてネ」というように、唇に指を当てたが、「セントラル・パーク」のくどいでは、やはり歓声が上り、美しいアートの歌声が、夜空にたち上っていく。点々ときらめくニューヨークの灯。続いて、ポールが今度は初演の歌を歌いますと、音を探りながら故ジョン・レノンに捧げて「**レイト・グレイト・ジョニー・エース**」を、やや厳しい表情で歌ったが、これはここには収められていない。又、歌の際中に、一人の男がとび出してステージにかけ上り、ガードマンに捕り押えられるシーンもあってヒヤリとさせられたが、ポールは少しも表情を変えずに歌いつづけていた。その次もポール・ナンバーだが、アートも加わってユニゾンから力強いハーモニー、と発展していく「**僕のコダクローム**」に、チャック・ベリーの「**メイベリン**」がメドレーで続く(C-3)。軽快なカントリー・ロック調に、又もや聴衆は大喜びで踊りだす。そしてサイモン&ガーファンクル最大のヒット曲「**明日に架ける橋**」(C-4)へ。レコードのラリー・ネクテルの透明なピアノに変わって、ここではちょっとゴスペルっぽいチャード・ティのピアノが、見事なアートの歌声に安定感を与えている。気張らず、確信にみちたアートの歌声は感動的。歌い終ってアートはうなだれるようにし、深々とおじぎをしたのも印象的だった。

アートに変わって今度はポールが主役。「**恋人と別れる50の方法**」(D-1)を歌いながら、ポールはちらっと家族の方をみてニコリ。アートはちょっと離れて立ち、時々、手拍子をとっている。スティヴのドラムスも歯切れがいい。魅力あふれるポールの歌声。続いて、アートが「みんな、どう? 寒くないかい?」「ノー、顔を見合せる二人は幸せそうだ。一番のお気に入り「**ボクサー**」(D-2)が始まる。途中で声が掛る。二人ともニコリ。そして歌いながら、ききながら感動の渦はどんどん広まって熱くなっていく。熱狂の人々は全員立ち上り、ただ歓声のみ。ポールがアートの背を抱きかかえるようにして、一端コンサートは終るのだが、勿論聴衆は帰らない。鳴りやまぬ歓声に、ポールのギター伴奏のみで二人だけのアンコールが始まる。

「旧友」(D-3)のしみじみとした歌声が、一人一人の心に確実にしみ入っていく。「**ブックエンドのテーマ**」もメドレーで歌われる。「**59番街橋の歌**」(D-4)は「素敵な気分」という別名「**フィーリング・グルーヴィ**」の方が、この場の雰囲気合っている感じ。時々見合ってニコリしながら、ゆったりと歌われ、アートが気持ちよく手をひろげると、わあっと歓声が上る。そして遂に出た「**サウンド・オブ・サイレンス**」(D-5)。ロック・リズムを加えないオリジナルに近い素朴なスタイルで、しみじみとかみしめような歌声。二人も様々な思いで歌っているのだろう。感慨深げで、アートの瞳には涙が光っているように思われた。歓声、また歓声……。二人は抱くように手を後に廻しながら、しばし立ちつくす。ここで実況盤は成功のうちに終りとなるのだが、コンサートではもう一曲「追憶の夜」が歌われ、ポールは「ワーオ!」、アートも高々と両手を高く掲げて終幕。そのあと感激の嵐はいつまでも鳴りやまなかった……。

1982年2月 鈴木道子 Michiko Suzuki

SIDE ONE

① ミセス・ロビンソン

あなたに言うことがあるんです
ロビンソンの奥さん。イエス様は
あなたにはわからない程あなたを愛しています
Wow,wo,wo
神様は、あなたを祝福しているんです
喜ぶんですねロビンソンの奥さん
天福は祈る人のためには居場所を
確保しているのです
Hey hey hey,hey hey hey

私共の書類(ファイル)のためにも
あなたのことを少しばかり教えて下さいな
あなたが自分を救う道を学ぶため
私共はお手伝いさせて頂きたいのです
まわりを見まわしてご覧下さい
見えるのは同情のまなざしばかり
くつろげるまで暫くは
庭でも散歩してくるんですね
(Chorus)

そんなものは仕舞っておきましょう
誰の眼にも届かない隠し場所へ
戸棚にカップケーキと一緒に入れておくんです
ちっぴけな秘密じゃないですか
ロビンソン家だけの秘め事なんだから
何ていったって
子供たちには隠しておいた方がいいですね
ホラ、ホラ、ロビンソンの奥さんってば。

(Chorus)

日曜日の午後にはソファに坐り
選挙演説会に出かけて行って
笑えばいいし、騒ぐのもいいですね
誰を選ぶかという段になったって
どっちみち、大したことじゃありません。

どこへ行ってたんです、ジョー・ディマジオ？
国中が寂し気な眼を向けているというのに
Wow, wo, wo
何て言ったんです、ロビンソンの奥さん？
“ぐいぐいジョー”なんて、もういないのに
Hey hey hey,hey hey hey

② 早く家に帰りたい

ぼくは停車場に坐っています
目的地までの切符も買いました
Mmm
—晩限りの演奏旅行のために
スーツケースとギターを手を持って
どこへ行っても 結構なお膳立て
詩人のたった1人のバンドにふさわしく
早く家へ帰りたい
そうできたらいいのにな
早く家へ帰りたい
ぼくの思いか隠れる我が家
ぼくの音楽が奏でられる我が家
ぼくの帰りを待つ愛が住んでいる我が家
静かに ぼくを

毎日か果てしない流れ
煙草と雑誌で明け暮れる
Mmm
どの町も ぼくには同じに見える
映画館も工場も
目に映る 見知らぬ人の顔にさえ
ぼくの願いはつのるばかり
早く家へ帰りたい
そうできたらいいのにな
早く家へ帰りたい
ぼくの思いか隠れる我が家
ぼくの音楽が奏でられている我が家
ぼくの帰りを待つ愛が住んでいる我が家
静かに ぼくを

今夜も自作の曲を歌うでしょう
ゲームのつもりで その気になって
Mmm Mmm
でも言葉は全部 自分のところへ戻ってくる
さまざまな明暗を残しながら
調和の中の虚しさみたい
慰めてくれる人が必要なんです
早く家へ帰りたい
そうできたらいいのにな
早く家へ帰りたい
ぼくの思いか隠れる我が家
ぼくの音楽が奏でられている我が家
ぼくの帰りを待つ愛が住んでいる我が家
静かに ぼくを
静かに ぼくを

③ アメリカ

ぼくたち恋人になろうよ
結婚して2人の未来を1つにするんだ
カバンに少しなら、お金を持っているんだよ
そこで、ぼく達はタバコを1ケースと
ワグナーの奥さんが焼いたパイを買いました
それから歩きだちたのです
アメリカを探しに

「ねえ、キャシー……」とぼくは言いました
ビッツバーグでグレイハウンドに乗ったのです
「……ミシガンなんて今では夢みたいだ
昔は4日もかかったんだよ
シグノウからヒッチハイクした時ね
ぼくはアメリカを探しに来たんだ」

バスの中では笑いながら
乗客の顔を見てゲームをしました
ギヤバジンのスーツを着た男を見て
スパイだなんて彼女は言いました
だから言ってやったのです。「気をつけろよ
やつネクタイは本当はカメラなんだ」ってね

「タバコをなげてくれないか
レインコートに最後のが'あったはずだから」
「1時間も前に、私たち吸ってしまったわ」
Woo, woo… Woo
そこで景色をながめることにしたのです
彼女は雑誌を読んでいた
月か眩い草原の向こうに昇っていました

眠っているのを知ってはいたけれど
ぼくは言うてみたんです。「キャシー、
わからなくなってしまったんだ、
虚しいんだ、苦しいんだよ、
何故だかわからないけれど」
ニュージャージー・ターンパイクでは
走る車を数えたりしました
みんな やって来たのです
アメリカを探そうと
みんな アメリカを求めてやって来たのです
みんな アメリカを求めてやって来たのです
みんな アメリカを求めて…

④ 僕とフリオと校庭で

ママはパジャマのままベッドからころげ出し
それから警察にかけ込みました
ママは見つけるとわめき出し
そして 調査を開始したんです
これは法律に違反している
これは法律違反だぞ
ママの見たものは
法律に違反している

ママはうつむいて 地面につばを吐く
ぼくの名前が呼ばれる度に
ママは言いました あの小僧をつかまえたら
留置所にぶち込んでやる
そこで ぼくは自分の道を歩き出す
どこへ行くのか知らないけれど
自分の道を 自分の時間で
どこへ行けばいいのだろう
コロナの女王ロージーにさようなら
また会いましょう ぼくとフリオと校庭で
また会いましょう ぼくとフリオと校庭で
ぼくとフリオと校庭で

2・3日もすると みんながやって来て
ぼくを連れて行ったんだ
だけど この話が新聞に載ると
進歩派の牧師がやって来て
ぼくを行かせてくれました
ぼく達 ニューズウィークの表紙に出たんです

それから ぼくは逃げ出した
どこへ行くのか知らないけれど
自分の道を 自分の時間で
どこへ行けばいいのだろう
コロナの女王ロージーにさようなら
また会いましょう ぼくとフリオと校庭で
また会いましょう ぼくとフリオと校庭で
ぼくとフリオで

⑤ スカボロー・フェア/詠唱

スカボロー・フェアに行ったなら
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
そこに住んでいる人に よろしくと伝えて下さい
彼女は ぼくの真実の愛でした

麻のシャツを作ってくれと言って下さい
(丘の中腹に、森の緑の奥深く)
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
(雪にすずめが跡した、茶色の羽毛)
縫い目もなく 針のあともなく
(山の子供らの、毛布と夜具)
そうすれば 彼女は真実の愛になるのだと
(ラッパが呼ぶのに、知らずに眠る)

ぼくに1エーカーの土地を
見つけて欲しいと伝えて下さい
(丘の斜面に、木の葉が舞って)
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
(銀の涙で、墓場を洗う)
塩水と 清(なぎさ)の間に
(兵士は銃を、きれいに磨く)
そうすれば、彼女はぼくの真実の愛になるのです

なめし皮の鎌で刈れと彼女に伝えて下さい
(深緑の軍勢からは、戦鬨の響き)
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
(将軍は兵士に命ずる、殺せと)
ヒースを一束にして全部を集めるようにと
(とつくの昔に忘れられた理由で、戦えと)
そうすれば ぼくの本当の愛になるのです

きみがスカボロー・フェアに行ったなら
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
そこに住んでいる人に よろしくと伝えて下さい
彼女は昔 ぼくの真実の愛だったのです

SIDE TWO

① 四月になれば彼女は

4月になれば 彼女はきつとくるだろう
雨で小川の水かさが増す頃は
5月になれば 彼女はここに落着くだろう
ぼくのうちでの中で再び眠りながら

6月になれば 彼女は気分をかえ
落着かない素振りて夜をさまようだろう
7月になれば 彼女は飛んで行ってしま
行ってしまふなんて一言も告げずに

8月になれば 彼女はきつと死んでしま
秋の風は寒々と冷く吹いて
9月になれば ぼくはきつと思い出す
一度は新しくった恋も古びてしまったことを

② リトル・スージー

起きろよ、スージー、起きろよ
起きろよ、スージー、起きろよ

ふたりともすっかり寝こんでしまった
起きろよ、スージー、泣けてくる
映画は終わってる、もう4時だよ
大変なことになった

起きろよ、スージー
起きろよ、スージー

きみのママに何て言おうか
きみのママにも何て言おう
友達にはどう説明しようか
起きろよ、スージー
起きろよ、スージー

きみのママには10時までに帰るって言った
また失敗しちゃったね
起きろよ、スージー
起きろよ、スージー
もう帰らなきゃ

起きろよ、スージー、起きろよ
起きろよ、スージー、起きろよ
おもしろい映画じゃなかった
とりたてて筋もないし
それで眠ってしまったんだ
もう、とり返しかつかない
これでふたりの信用も台無しさ
起きろよ、スージー
起きろよ、スージー

きみのママに何て言おうか
きみのママにも何て言おう
友達にはどう説明しようか
起きろよ、スージー
起きろよ、スージー
起きろよ、スージー

(訳：滝上よう子)

③ 時の流れに

昔の恋人に会った
きのうの夜道のまんなかで
彼女はぼくに会えてうれしそうだった
ぼくもほほえみ
昔のことを喋り合い
ふたりでビールを飲んだ
やっぱりきみに狂ってるのさ
やっぱりきみに狂ってるのさ

派手にふるまうことなんか
とてもできる男じゃない
どうやらぼくは
古いタイプの人間らしい
だけどぼくだってバカじゃない
耳元でささやきかけるラブ・ソングはもういらないさ
やっぱりきみに狂ってるのさ
やっぱりきみに狂ってる

明方の四時
しょぼくれて
あくびをひとつ
ぼくの人生なんて早く過ぎればいい
これからくよくよしないさ
してもはじまらない
なにもかも色あせていくいまだもの

いま窓辺に腰かけて
外を走る車に見入る
ぼくもまた事故を起こすのか
ある晴れた日に
だけどどこかめは受けない
陪審員もひとつ穴のむじなじゃないか
やっぱり狂ってる
いまでもやっぱり狂ってる

(訳：小林宏明)

④アメリカの歌

なんども なんども 思い誤まり
なんども なんども 困惑し
再三再四 もうやるまいと思うのだが
確実にへまをやらかすのだ
だが いいのさ いいんだよ
ぼくは骨の髄までへたっているんだ
今までみたいに きみは
明るくて美食家でありたいなんて思っではだめだよ
こんな家から遠く遠く離れてしまってね

打ちのめされない人間がいるのかどうかは知らない
ぼくには打ちとけた友だちはいない
しめだされず膝まづかせられない夢があるとは知らない
だけど いいのさ いいんだよ
ぼくらは ずいぶん長いあいだ いっしょにやってきた
ぼくらのこれから先の旅を考えると
うまくことは運ばないだろうとは思う
どうにもならないね めちゃめちゃになるだろうよ

自分か死ぬことを想像したし
ぼくの魂が思いもかけず立ち上ることを想像した
ぼくを見下し
安心させるようにほおえんでね
ぼくは空飛ぶことを想像した
自由の女神が
はっきり見えるぼくの日よりも高く
海のかなたへ
空飛ぶことを想像した

ぼくらはメイフラワー号という舟に乗って
月まで行きつける舟に乗って
現代のもっともさだかならぬ時間に到達した
そしてアメリカの曲をうたっている
だけど いいのさ いいんだよ
昨日という日は無味乾燥な日に変わるだけだ
ぼくはやすらぎを手に入れようとしている
ぼくが手に入れようとしているのは やすらぎだけなんだ

ぼくはやすらぎを手に入れようとしている？
(訳：三橋一夫)

⑤追憶の夜

最初に覚えているのは
ベッドに寝かされていた時のこと
僕はまだ
はんの1、2才だった
隣の部屋からは
ラジオが流れ
母親は女性特有の
笑い声をたてていた
夜も大分更けて
音楽がそっとしのびよっていた

次に思い出すのは
通りを歩いていた時のこと
いい気分だったし
仲間も一緒
僕等は徒党を組んで歩いていた
通りをずっと行くと
ピリアードをしている奴等もいた
ア・カペラ・グループの歌声が
どこからか聞こえてくる
夜遅く歌っていると
女の子達は一斉に入口の階段に群がってくる

それからリード・ギターを習った
このファンキー・パーでは僕はまだ未成年
マリファナを喫おうと外に出て
部屋に交ってみると
もう誰もいない様子
アンプのヴォリュームを大きくして、僕は演奏を始めた
夜も大分更けていたけれど
部屋中を揺るがすような音だった

君に出会ったことで
真先に思い出すのは
どんなことをしても
この娘を手に入れると心に決めたこと
前にも恋したことはあるし
何度か辛い思いもした
でも君ほど
愛した人はいない
あの時も夜は深まっていた
そして音楽がしのびよっていたんだ

(訳：滝上よう子)

SIDE THREE

①スリップ・スライディン・アウェイ

そおっと立ち去っていく
そおっと立ち去っていく
目的地が近くなればなるほど
そおっと立ち去っていく

ぼくの知ってる男
彼はぼくの生まれ故郷の町からやってきた
愛する女にささげる情熱を身につけて
まるでイバラの王冠のよう
ドローレス、と彼は言った
俺はこわくてしかたがない
おまえへの愛が強すぎるから
俺の姿が消えてしまわないかと心配だ

(Chorus)

ぼくの知ってる女は
妻になった
彼女は自分の人生を語るのに
こんな言葉を使って言う
彼女に言わせれば
良い日には雨が降らない
彼女に言わせれば
悪い日にはぼくのベッドに横たわり
ありもしないことに思いをめぐらす

(Chorus)

そしてぼくが知ってる父には息子がひとりいた
彼は自分がしてきたことのいいわけを
どうしても息子に伝えたがった
彼ははるばるやってきて
そのわけを伝えた
息子が寝入るとキスをして
きびすを返すと再び家を目指した

(Chorus)

神だけが御存知
すべて神の御叱のまま
それを知る手だてはない
命に限りある人間には
ぼくたちは自分の仕事をし
食べていかれるだけのものも稼ぐ
ぼくたちはハイウェイをすべりおちていることを信じることだ
そおっと立ち去っていくのだから

(訳：小林宏明)

②ハート・イン・ニューヨーク

ニューヨーク、この町を空から訪れれば
目に入る高層ビルの群れ
ニューヨーク、眼下に広がるセントラル・パーク
でもそこは日が暮れたら危険な場所
ニューヨーク、まるで映画のシーンのようだけど
僕にはとても身近な町
ニューヨークにはハートがあるんだ

ニューヨークの心、通りのにぎわい
あの町のリズムに合わせて歌を書こう
ニューヨークの心、その瞳に浮かぶ愛
あけっひろげて眠りを知らない町

ニューヨーク、頼りになるのはお金だけ
僕の言葉なんてどうでもいいんだ
さあ、ニューヨークに乾杯しよう
ニューヨーク、僕の飛行機は今、そこへ下りてゆく
……

(訳：滝上よう子)

③僕のコダクローム

高校でつめこまれたガラクタを
思い返してみて
ちゃっとでも思い出せることがあったら
そりゃ不思議だ
何もおぼえちゃいないけど
だからといって困ったことなんかなかった
壁の落書き読めるもんね

コダクローム
あの明るいすてきな色
夏の緑のいい感じ
世界じゅうに太陽いっぱい
そういう思いにしてくれる
ぼくはニコン・カメラをもっていて
写真をうつすのが大好きだ
だから ママ ぼくのコダクロームをもってかないで

仮にぼくの独身時代に
つきあってた女の子を全部
写真にとって
ある晩 集めたとしても
ぼくの楽しいイメージに
かないっこんなかないんだよ
白黒でとると
なんでもかんでもしらけちゃうのさ

ママ ぼくのコダクロームをもっていかないで
ママ ぼくのコダクロームをもっていかないで
(訳：三橋一夫)

メイベリン

メイベリン、素直になるんだ
正直におなりよ
昔の君はどこへ行ったんだい
丘をドライブしていたら
クープ・ド・ヴィル(キャデラックの種類)に乗った
メイベリンを見かけた
広い道をキャデラックは走ってゆく
でも僕のV8・フォードにはかなわないさ
キャデラックは時速、約95マイル
彼女は他の車を追い越して走ってゆく

モーターは冷え、温度が下ってきた
その時間こえたハイウェイ・サウンド
キャデラックは鉛のかたまりのように動かない
時速110マイルで行けばあと半マイル
キャデラックはまだすわりこんだまま
遂に丘の上でメイベリンをつかまえた

(訳：滝上よう子)

④明日に架ける橋

きみがへこたれて ゆううつなときは
君の瞳に涙がいっぱいときは
その涙を乾かしてあげよう
君の味方だもの
つらいときがきて
頼る友達もいないときは
明日に架ける橋のように
僕が身をなげかけてあげよう

君が打ちのめされたとき
あてもなく通りをさ迷うとき
つらい夕暮がやって来たときは
君を慰めてあげるだろう
君の苦しみと代ってあげよう
暗闇がやって来て
苦痛があたりにたち込めたら
明日に架ける橋のように
僕は身をなげかけてあげよう

銀色の少女よ、出帆しよう
どこまでも船を進めてお行き
君の輝くときが来たんだよ
君の夢は全部すぐそこまできてる
ごらん、そこで輝いているのを
もし君の友達が見つかったなら
君のすぐあとをついて行ってあげる
明日に架ける橋のように
君の心を楽にしてあげよう

SIDE FOUR

①恋人と別れる50の方法

あれこれ考えてみてもはじまらないわ
彼女はぼくにそう言った
論理的に考えれば
こたえは簡単よ
自由になろうってもがいているあなたに
手を貸したいの
恋人をおいていく方法は
きつと50もあるんだから

彼女は言った ほんとうはいやなのよ
おせっかいなんて
それに困るんだわ
あなたがまよったり誤解したら
だけどもう一度言うわ
でしやばりだと思われても
恋人をおいていく方法は
きつと50もあるのよって
恋人をおいていく方法は50もあるのよ

(Chorus)

背後からそっと出ていけばいいのよ ジャック
新しい計画をたてなさい スタン
遠慮することなんかないわ ロイ
自由におなりなさい
ひょいとバスにとびののよ ガス
くどくどと話し合う必要なんかないわ
鍵なんて捨てておしまいなさい リー
そして自由におなりなさい

彼女は言った あたしとても悲しいのよ
あなたがそんなに苦しんでいるのを見ると
できることがあればしてあげたい
もう一度あなたがほえんでくれるように
ぼくは言った ありがとう 感謝するよ
ぼくに教えてくれないか
その50の方法を

彼女は言った どうかしら
今夜ふたりで寝ながら考えてみたら
朝になれば
きつと光が見えてくるわ
そして彼女はぼくにキスをした
たぶん彼女の言っていることが正しいんだろう
恋人をおいていく方法は
きつと50もあるにちがいない
恋人をおいていく方法は50もある

(Chorus)

(訳：小林宏明)

②ボクサー

ぼくは哀れな少年なんです
めったに身の上ばなしはしません
ぼくは約束だの嘘だの冗談だのと
ポケット一杯のたわごと
ぼくのレジスタンスを
無駄使いしてしまったんです
それでも人は聞きたいことだけに
耳を傾け、あとは知らん顔なんです

ぼくがまだ故郷も家も捨てたときは
まだ見知らぬ一団に混った
ほんの子供でした
停車場の静けさの中で
おびえていたのです
恥ずかしげに貧しい街を捜し
見すばらしい人々が行きつく
彼らだけにわかる場所を求めて

嘘で、嘘で、
嘘で、嘘で、嘘で、

職工の賃金でもいいからと
ぼくは仕事を探したけれど
職をくれる人はいませんでした
ただセブンス・アベニューにたむろする
娼婦の誘惑があっただけで
でもぼくは白状するけれど
ちょっと慰められたのです

嘘で、嘘で、
嘘で、嘘で、嘘で、

それから、ぼくは冬服を仕立て
故郷へ帰ってしまいたいと思いました
ニューヨーク・シティの冬は
血の出るほどの心痛はないけれど
ぼくを望郷の気持ちにさせるのです
開拓地に1人立つボクサーは
職業的な戦士です
激怒と恥辱のさ中で彼は
試合をやめるか泣き出してしまふまで
打ちだされるグラブのあらゆる一撃の
警告を忘れはしません
「ぼくは行ってしまう、行ってしまう」
だけどその戦士は今もそこに残っています

③旧友

年老いた仲間
老人仲間が
公園のベンチに
ブックエンドみたいに腰かけている
芝生の上を吹き飛ばされた1枚の新聞紙
まるいつま先に落ちた
老人達の
底の深くつ

老人仲間
冬の道づれ
老人達が
オーバーコートに埋(うず)もれて
日没を待っている
街のざわめきが
木立ちを通して流れてきて
老人達の肩の上に
塵のように積もってゆく

きみは想像できるかい
ずっと何年も先のぼくたちを
ひっそりと
公園のベンチを分けあっているのを？
70歳になるなんて
どんな不思議な気がするだろう

老友がふたり
想い出が同じ時代をかすめて通る
同じ怖れを 静かに分かちあいながら

④59番街橋の歌(フィーリン・グルービー)

ゆっくり行くんだ 急ぎすぎてるぜ
この素敵な朝を 永持ちさせるのさ
敷石をコツコツと鳴らして歩き
おもしろいことを探してみれば
とってもいい気分
バラララーラーラー
とってもいい気分

ハロー 街灯の柱さん
何を知っているんだい？
君の花が咲くところを見にきたんだよ
ぼくのための詩はないのかい？
ドゥーテン ドゥ ドゥ
とってもいい気分
バラララーラーラー
とってもいい気分

しなければならないことも
守る約束もありやしない
まぶたが重いよ すぐにも眠れる
朝の雫(しずく)は
降りかかるままにしておくさ
人生？ 愛してる
何から何まで いい気分
バララララララララ
バララララララ...

⑤サウンド・オブ・サイレンス

ハロー ぼくの古い友達 暗闇よ
また君と話しにきてしまった
ボンヤリとした夕陽がそっとやってきて
ぼくの眠っている間にその種を置いていった
そのまぼろしはぼくの意識に宿り
今も静寂の音の中で動かない

安らぎのなき夢をまどろみながら
玉石を敷きつめた狭い道を1人歩いた
街灯のはの明りの下を
冷氣と湿気に衿を立てて
ネオン・ライトの閃光が ぼくの眼を射るとき
夜は引き裂れ ぼくは静寂の音に触れる

裸電球の明りの中にぼくは見た
1万人かもっと沢山の人びとを
話すことなくしゃべり
耳をかたむけることなく聞き
決して歌われることのない詩を書く人びとを
誰も静寂の音を呼び醒そうとはしない

「おろかもノ」とぼくは言った
「君たちは何もわかっていないのだ
ガンのように身体を触らむ静寂を」
「君に教えるぼくの言葉を聞くのだ
君にさしのべるぼくの腕をとるのだ」
だけど ぼくの言葉は
音もなく落ちてゆく雨の雫(しずく)
そして 静寂の井戸の中でゴダマするだけ

人は自分の造ったネオンの神にぬかずき祈る
ネオン・サインは言葉を並べながら
こんな警告を閃めかせる
「予言者の言葉は……
地下鉄の壁や下宿屋の廊下に書かれている」
そして静寂の音の中で囁かれている



ギター弾き語り曲集



- サイモン&ガーファンクル・グレイテスト・ヒット
AB判/80頁/定価800円
- サイモン&ガーファンクル・
ベスト曲集
B 5判/128頁/予価1,600円

シンコーミュージック刊

※このレコードの対訳は、オリジナルの歌詞をもとに起こしたものですので、実際のライブ演奏とは若干異なる部分があります。
※ライブ録音時の機械的ハム音が多少入っておりますが、ご試聴にはほとんど問題はないと思います。ご了承お願いいたします。